

トレンド



「ラノベ古事記 日本の神様とはじまりの物語」作者の小野寺優さん(写真右)。サイトに載せている神様のイラストも今風だ(同左、Lee氏制作)



まみよさんはコミュニティFMで古事記の番組を持つ(写真左)。古事記プロジェクトでは楽曲動画をネットにアップしている(同右)



古事記は「ネタの神様」!?

日本初の姉弟愛、日本初のツンデレやイケメン——。古事記に登場する神々のエピソードを現代風に意識するところなるそう。神話の中の神々はいずれも個性豊か。そのキャラクターにひかれ、青少年向けのエンターテインメント小説、ライトノベル(ラノベ)にアレンジしたり、音楽やドラマにしたり。神々を創作のネタとし、楽しみながらあがめ奉る、新たな信者が増えている。

「うおおくなんじゃこ」記を現代語訳っていうか、りゃあ?? カッケェ!! ラノベ風にしてみた」。

「これあれじゃね??」 「サブカルチャーにおけるラスボス倒すもたらる古代史をけん引する大なる最強武器的なソレじゃね??」

筆者で都内在住のウェブライター、小野寺優さん(33)は「古事記って日本最古のラノベなんです」と熱く語る。「神様はみんなキャラ立ちしているし、雲の上(高天原)、地上(中つ国)、死者の国(よみの国)がでてくるなんて、ファンタジーと同じ」

約5年前、文学少女の友人から「日本人なら古

個性的キャラ、ラノベに降臨

事記を読まないためよね」と言われ、初めて触れた。「ストーリーは面白いし突っ込みどころ満載。最高神アマテラスが女の子というもキュンとした。(岩戸から出て来て)引きこもりの子に勇気を与えてくれる」

様々な関連書籍を読んだが「多くは初心者には難しい。面白さを広めるため入門編を作ろう」とラノベ風に訳した文章をネットにあげた。するとページビュー(PV)は月50万件を突破。「ラノベ古事記 日本の神様とはじまりの物語」の題名で昨年、KADOKAWAから出版された。

古事記関連の書籍は少しずつ存在感を増している。児童書の備成社(東京・新宿)が2017年12月に出した「絵物語古事記」は4カ月で3刷1

聖書発の漫画・ゲームも



万7000部。予想以上の売れ行き。男性会社員も買っている(同社)

「伊邪那岐(いざなぎ)や、伊邪那美(いざなみや)や」。古事記を楽曲やドラマ

エンタで楽しくあがめ奉り～